



5月10日 新十津川中学校が安渡地区で交流会

5月10日(木)、北海道新十津川中学校の修学旅行生が、安渡地区で交流会を行いました。同中学校では、毎年修学旅行で当町を訪れ、震災について学んだり、地域住民と交流をしたりしています。生徒たちは、食事や踊りなどの後、昨年訪れた先輩方が集めた募金を大槌町へ寄付したほか、交流してくれた地域の人たちへ合唱「ひまわりの約束」をプレゼントしました。



5月12日、20日 町内各校で運動会



5月12日(土)に吉里吉里学園中学部、5月20日(日)に吉里吉里学園小学部および大槌学園の運動会が開催されました。昨年に続き2回目の9学年での運動会となった大槌学園では、昨年度の3チームから今年度は2チームでの対抗戦となり、9年生のリーダーシップのもと、優勝目指して熱戦を繰り広げました。吉里吉里学園では、恒例となった保護者や地域住民を交えた競技に会場は沸き、児童生徒たちも笑顔を見せながら全力でぶつかりあいました。



5月15日 町と住宅金融支援機構が連携
～相互協力協定を締結～

5月15日(火)、大槌町と独立行政法人住宅金融支援機構による「UIターン」「空き家対策」に係る事業を対象とした相互協力協定の締結式が行われました。これにより、要件を満たす場合に借入金利を引き下げる制度「フラット35地域活性化型」の利用が可能になります。詳しくはコミュニティ総合支援室(TEL 0193-42-8718)へお問い合わせください。



5月15日 震災伝承推進活動に関する協定を
大槌高校と締結

5月15日(火)、震災を後世に伝えていくための「震災伝承推進活動に関する協定」を町と県立大槌高等学校が締結しました。この協定により、高校生がこれまで記録してきた約3,000枚の定点観測写真を町の文化交流センターで閲覧可能にするなど、今後町と学校とが協力して震災伝承に取り組んでいきます。復興研究会で、写真撮影を担当する佐々木慎くん(2年)は、「先輩からもらったものを受け継ぐのはもちろん、自分が覚えたことや見方なども伝えていきたいです」と抱負を語りました。



5月16日 (仮称)三枚堂大ケロトンネル貫通式

大槌川流域と小鉾川流域をつなぐ(仮称)三枚堂大ケロトンネルの貫通を記念したセレモニーが5月16日(水)行われました。参加者は三枚堂側入り口からトンネルへと入り、平野町長らによる貫通の儀によって大ケロトンネルの入り口から光が差し込むと、会場からは大きな歓声が上がりました。セレモニーでは、トンネルによってつながる地域にある大槌保育園、大ケロトンネルの園児たちが、両側から歩み寄りハイタッチを交わした後、元気なダンスや呼びかけで貫通を祝いました。このトンネルの完成は平成31年3月末を予定しています。



おおつち新山高原
ヒルクライム2018



大槌の町から新山山頂を目指す約23キロメートルをコースとする「おおつち新山高原ヒルクライム2018」が5月20日(日)青空の下、開催されました。この大会は、町内の自転車を愛する方々やコースとなる小鉾川流域の地区の方々を中心とした実行委員会によって運営され、今回で第3回目を迎えます。大会理念として「再生(新山つつじの再生)」「創生(東日本大震災からの復興)」「共生(三陸エリア広域連携)」を掲げ、全国から訪れる多くの選手たちを大槌の自然と町民の笑顔でおもてなししています。今大会には、第1回から欠かさず出場を続ける約50名の常連選手をはじめ、209名の選手が参加しました。

最もレベルの高い部門、エキスパートクラスでは、神奈川県の高橋義博さん(42)が優勝。全長13キロメートル、標高差864メートルのコースを40分34秒という驚異のタイムで走り抜け、見事大会3連覇を果たしました。

しました。女子クラスでは、宮城県から初出場の星恵莉奈さん(26)が、2連覇中だった花巻市の細川久美子さん(38)を抑えて優勝。男女合わせた総合順位でも24位という素晴らしい走りを見せました。60歳以上の部である男子Fクラスでは、22名が参加し、秋田県の杉本正寿さん(60)が優勝。また大会最高齢で盛岡市の鈴木確治さん(71)が堂々の2位に入る活躍を見せました。

町内外含めた多くの参加者で賑わったヒルクライムは、表彰式の盛り上がりとともに幕を閉じました。選手の皆さんは、「毎年来てくれるけれど、来るたびに街並みが変わって復興が感じられる」「大槌の自然と、応援してくれる皆さんが大好きになった」「まだまだ大変だと思いますが、どうか頑張ってください。応援しています」と力強いエールを送ってくれました。

高橋義博さん

星恵莉奈さん